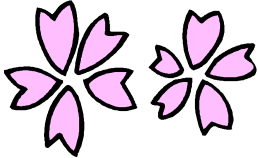




グローバル

NO. 76

こうのす国際交流市民の会



発行責任者

鈴木和子 Tel. 090-6035-3649

お問い合わせ先

06suzuki-kazuko@tcat.ne.jp

発行日

2014年3月31日

お知らせ

お花見に行こう！

日時：4月6日（日）9:45 北鴻巣駅東口集合

場所：埼玉古墳公園

埼玉緑道を通り、のどかな道を約4キロメートル歩きます。

楽しい春を満喫しましょう！

総会のお知らせ

日時：5月18日（日）午後1:00～2:00

場所：田間宮生涯学習センター

総会后、当会会員の林さんによる、講演会が行われます。

どうか、奮ってご参加ください。

「国際交流は楽しい！」

“海外50か国の訪問や駐在経験から見てきたこと”

講師：林邦彦さん

トピック

- ◆ 東日本大震災チャリティーコンサート in Konosu
- ◆ 緑の宝石箱—シュンドルボン
- ◆ 你好！（ニーハオ！）「鴻巣市日中友好協会」です

梶山洋子
小林佳代
臼田誠躬

東日本大震災チャリティーコンサート in Konosu

梶山 洋子

昨春より準備を進めていた「東日本大震災チャリティーコンサート in Konosu」が、3月15日クレアこうのすにて開催されました。

NPO 埼玉ネット代表の松尾道夫さんにもご参加いただき、阪神淡路大震災と「がんばるぞう」についてのお話を伺いました。被災地で作られたタオル製「がんばるぞう」を購入するという支援の仕方は、制作意欲と生きる意欲を高める良い方法でした。

女声コーラス“シャンテ”の大人の女性によるアニメソングのメドレーを聴き、お腹の底からこんな風に声を出して歌うのを聞かせていただくのも良いものだなあと思いました。みなさまも歌って見たい気持ちになったのではないのでしょうか。

鴻巣少年少女合唱団の皆様は、若くてかわいい澄んだ歌声で5曲を熱唱してくださいました。中でも、覚和歌子、千住明両氏による「坂道の歌」のエピソードには心打たれるものがありました。大船渡保育園園歌の「さかみちをのぼって」の歌詞をそのままさび部分に盛り込んで、「地震がきたら高いところに逃げなさい」というメッセージソングとして大人がうたう歌をつくられたそうです。

そして私たちの仲間である加賀紅さんの歌を聴き、どこかに置き忘れていた感情が静かに湧き上がってきて心を満たしたかの様な気持ちになりました。歌の力は素晴らしいですね。

この日のために選ばれた全ての歌には、「今はこんな風だけれどもいつかきっと変わる。だから辛いこと、かなしいことにも一度は心を開いて受けいれてみて！その先にあるのは絶望じゃないよ」と、静かに伝えてくれるメッセージがあるように感じられました。私たちは毎日ささやかな事に励まされて生きているのかもしれない。

会場では、230人ものお客様が拍手でコンサートを盛り上げてくださいました。どなた様も楽しんでくださったことでしょう。受付に設置した募金箱にもたくさんの善意のこもった募金をいただき、そのお礼に差し上げた「梶山立志・チャリティー絵葉書」も楽しんでいただけたのは嬉しいことでした。

会場ではこんな声も拾いましたよ。「オペラだって！すごい(小学生)」「紅さんがこんな風に歌うなんて知らなかった。感動しました。(フィリピン人の女性)」英語、中国語、スペイン語によるインフォメーションにも興味を示していただきました。

このコンサートを開催するにあたり、出演者の方々、会員の皆様はもとより大勢の方々のご協力をいただきました。震災のような事が起こった時にとても力になるのはこういうつながりですよ。人と人のつながりに感謝いたします。

このコンサートを通じて、震災から3年経った今でも私たちは被災地と被災した方々へ寄せる気持ちを忘れてはいないことをお伝えできたのではないのでしょうか。

募金 58,250円と経費残金38,832円 の合計97,082円は鴻巣社会福祉協議会に寄付致しました。東北被災地支援に役立てて頂きます。

がんばる象を100,000円で購入していますので今回は197,082円の協力ができました。

楽しいスペイン語クラブ 2014 PRIMAVERA

渡辺邦典記

土曜日の午後、市内外のあちこちから中央公民館にいそいそと老若男女が集まって来ます。何年も前から熱心に来ている女性、つい最近来ようになったご年配、仕事を終えてやっと間に合ったと言うOL、久しぶりに顔を出してきたベテラン等など。

いつもの12~3人が揃ったところで、アルゼンチン人ディエゴ先生の「皆さん先週はいかがでしたか？」という声でスペイン語クラスが始まります。「風邪引いて何もしなかったわ」「温泉に一泊してきた」「ソチのオリンピック見て毎日眠くて」「キューバ大使館のイベントに行ってきました」「雪かきで疲れちゃった」、又たまには「昨日海外旅行から戻ったばかり」と言いながらお土産のチョコを配る御仁もいてひとしきりそのお国の話になります。事前に作文して来る人もいますが、これらをなんとかスペイン語で言おうとするのでこれがまた大変、先生の助けを借りながらもいつの間にかすっかり日本語になっているなんてこともあります。

最近やさしいスペイン語のテキストをみんなで一括購入しました。先生が最初から順次丁寧に教えてくださるので全く初めての人でも心配無用、練習問題も沢山あり、まじめにやればいつの間にかスペイン語のしくみが分かってきそうです。その他に先生が独自に作ったプリントやクロスワードパズルもあって居眠りする暇もありません。

そして最近の楽しみは、ときどきスペイン語ネイティブのゲストを招くことです。これまでスペイン、メキシコ、キューバ、ペルー、アルゼンチン、チリーなどからのホームステイや在日外国人、日本語研修留学生などに来て貰い、その国の国土、歴史、食べ物、気候、風俗習慣、交通、学校等を写真で説明してもらったりこちらからいろいろ質問したり、これは生きた会話の練習にも大いに役立っています。彼等の話を聞いていると言語や歴史、食べ物、習慣などが違っていても、人々の暮らしへの考え方や人間愛、家族の絆、生活の苦勞や楽しみ等はみんな共通するところがあることを実感するひとときです。このような座学の他に、時には調理室で料理の仕方を教えて貰いながら本格的な珍しいラテン料理に舌鼓を打つこともあります。

以上が私たちのスペイン語クラブの教室風景です。このクラブは「こうのす国際交流市民の会」の日本語クラブに次いで10年ばかり前に英語クラブと同じころ始まったもので、最初は箕田公民館でスペイン語通訳の日本人女性の方に、毎月4回3か月サイクルで基礎を教えて頂きました。その後、先生もペルー人やアルゼンチン人へ変わり現在は4人目の先生になります。受講者の中には、スペイン語を学生時代に勉強した人、海外駐在で使ったことがある人もいますが、殆どが初めての人ばかりです。

なぜ今スペイン語？もう一度スペインに行ってもっとしゃべってみたい、ラテン文化に触れたい、近辺のスペイン語圏からの在日外国人のお役に立ちたい、定年後スペイン語でもやってみるか、英語以外の言語を勉強してみたい、スペイン語検定に挑戦、ドン・キホーテが読めたら、等等各人が大きな夢？に向かって決して気負わず和気あいあいと楽しんでいます。

さあ皆さん!! 本誌 **グローバル** の語学紹介欄を見て、この教室を一度のぞいてみませんか？

緑の宝石箱・・・シュンドルボン

小林佳代

早朝、月がまだ明るい、朝もやの中を停泊している船からさらに小舟に乗り換えて、狭い支流に漕ぎ出していく。時々鳥の囀りと櫂の音だけの全くの静寂の世界・・・ここは、シュンドルボン。

バングラデシュの南西部に位置し、ユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録されている世界最大のマングローブの森。東京都三分の広さだ。シュンドルボンとは、ベンガル語で「美しい森」という意味。



大渋滞、けたたましいクラクション、その間をあらゆる方向から走り抜けるリキシャ（人力自転車）、さまざまな色のサリーを身につけた女性たち、そして、物乞い。ダッカとは別世界だ。

あっ、目の前をサファイアのような真っ青の鳥が横切った。カワセミだ。遠くでサルの鳴き声も聞こえる。どこまでも続くマングローブの森。ガイドが黙って前方を指さした。カワウソが川を泳いで横切っている。

シュンドルボンは、一年中旅行ができる場所ではない。十月から三月までの乾季の時期しかツアーは組まれていない。雨季は高温、高湿度、波も高く、ボートが流されることもあるそうだ。とても、マングローブを楽しむという環境にはない。その上、赴任前後から、五年に一度の総選挙のための野党連合によるホルタル（ゼネスト）が頻発し、治安が悪化したため、月の半分が自宅待機ということもあった。今年の一月五日に総選挙は強行され、その後治安が心配されたが、以外にも落ち着いたところだった。今しかないと旅行会社に駆け込み、1週間後のツアーを予約して、本当によかったと思う。



小舟で、さらに狭い水路を奥へ奥へと行くと両脇に観葉植物が巨大化したような木が、びっしりと密集している。マングローブ特有のごぼうのような根っこ（気根）がたくさん地面の上に突き出ている。泥の中は、酸素が不足がちになり、根が地表に顔を出し呼吸する。マングローブの林をぼーっと眺める。自然との一体感が心地良い。



そうだ、ダッカの街の中の道路にも、両脇には必ず木が植えてある。歩道の木はそのまま残すので、非常に歩きにくい。家の塀を新設するときは、くり抜いて木の成長を邪魔しないようにするし、屋根にも平気で穴をあける。森林が少ないこの国では、木はベンガル人にとって生命そのものなのかもしれない。ここに来てそんな気がした。

日が昇ってきた。今日は、ベンガルタイガーにあえるだろうか・・・二百回ツアーに参加したガイドも四回しか見ていないという。昨日は、上陸して、草を食んでいるシカの群れを見かけた。ドロドロにぬかるんだマングローブの林を通り抜けると中は草原になっていた。明日、ダッカに戻ってしまうけれど、渋滞や騒音でイライラしたり、ホルタルが続いて気がめいったりした時は、静かに目を閉じて、そっとこの緑の宝石箱を開けることにしよう。



你好！（二一ハオ！） 「鴻巣市日中友好協会」です。

鴻巣市日中友好協会会長 臼田誠躬

日頃なにかと、ご支援を頂いている「このす国際交流市民の会」鈴木会長から「鴻巣市日中友好協会について、なにか書いて下さい」とのお話があり紹介させていただきます。

『設立のいきさつ』

会設立は、平成24年（2012年）あの3.11東日本大震災の後の5月です。現在会員数は28名（うち中国人6名）ですが、設立時は15名でした。その年の3月、私はいきが大学伊奈学園2年課程卒業を期に、鴻巣市に日中交流のベースになる組織づくり計画をしました。

その時まで6年間所属してきた（特）埼玉県日中友好協会が進める中国の植林活動、留学生派遣事業等は、もとより大事な事業ではありますが、私は身近な市民だれもが参加できる活動、イベントを通して日中の友好交流を計りたいと考えました。

埼玉県には、県日中の他に、川口、さいたま、熊谷など市単位の日中友好協会がありますが圏央地区の鴻巣、北本、桶川には、その組織がありませんでした。そこで中国語教室の中国人の先生、中国語を習う仲間たちを中心として、会設立の趣旨に賛同する人たち15名をもって、鴻巣市日中友好協会を設立しました。

会設立にあたって私は二つのことに留意しました。一つは日中交流活動を目的とするからには、なるべく多くの中国人に会員になってもらい、日中両国人が目的意識を共有できる会としたい。二つめには日中友好活動は長い年月を要する根気のいる仕事です。そのためには、若い世代の人たちが中心になる会にしたい。会員構成を見て上記の二つの目標は、ほぼ達成されていると考えています。

『活動の内容』

1. 「チャーさんの簡易太極拳」

鴻巣公園にて、4、9月年二回開催した。斉藤夏子さんを指導者とする簡易太極拳のパフォーマンス。中国の公園で毎朝見られる太極拳を楽しむ人たちの集まりのようなものを目指したい。

2. 「夏期中国語講座」

楊鳳秋先生の指導で毎年7月、年1回ではありますが中国語講座を開設。「親子で学ぶ中国語講座」「二時間でわかる話せる中国語講座」「二時間で入門からステップアップ中国語講座」を開催。又、昨年は、中国語学習者による、「中国語発表会」を開催。「中国語を学ぶきっかけになれば～」と願っています。

3、「春節を祝う餃子の会」

中国のお正月、春節の時期に合わせて、中国人会員の指導で、中国伝統の餃子を皮からつくり本場中国の餃子を味わう会。会発足前から始まり今年で5回目の餃子の会となりました。

4、「中国講演会」

第1回 講師：田中寛氏、県日中友好協会会長 演題：〈中国とどう向き合うか〉

第2回 講師：田所竹彦氏、元朝日新聞論説主幹 演題：〈辛亥革命百年の中国、この大国は、どこへ行こうとしているのか〉

第3回 講師：田畑光永氏、ジャーナリスト 演題：〈国交40年—現状と展望〉

第4回 講師：渡邊義浩氏 早稲田大学文学学部教授、三国志学会事務局長
演題：〈三国志の世界〉

5、「中国料理教室」

中国伝統の料理、春餅（フンピョン）、八宝飯（パーフオファン）、薬膳料理などを中国人会員の指導で作り、賞味。

6、「中国ふるさと紹介」

楊鳳秋先生の大連市、王効拳さんの山東省、周さんの「上海結婚事情」などを紹介。

7、「日中茶道の会」

裏千家茶道正教授 清水廣子さん指導で「日本茶道体験会」、
中国茶インストラクター細井智子さん指導で「中国茶体験会」を開催。

8、「中国映画上映会と馬頭琴の演奏会」

平成25年度市民活動助成基金により、今年2月2日(日)、鴻巣市文化センター〈クリアこうのす〉小ホールにて開催。

二本の中国映画、午前は〈狙った恋の落とし方〉(原題：“非誠無擾”2008年)、映画の後半は北海道ロケをして中国に北海道ブームを巻き起こした中国映画史上最大級のヒット作品。午後は〈孔子の教え〉(原題：“孔子”2009年)日本でもよく知られる孔子だが中国でも孔子を主人公にした初めての映画。日本の映画の間では、馬頭琴奏者、セーンジャーさん(内モンゴル出身)による〈馬頭琴の演奏会〉。セーンジャーさんは日中両国で活躍中。素晴らしい演奏を堪能。

初めての映画上映で、果たして、どのくらいの入場者数があるか、たいへん心配した。結果としては、午前の映画で、52人、馬頭琴で142名、午後の映画で

168人、延べ人数で362人の入場者があり、まずは盛会と言っていいのではないだろうか。

『これからの抱負』

現在、日中両国は尖閣諸島の領有権をめぐる対立し、日中両国関係は1972年の国交回復以来、最悪の状況にあります。国と国とのつきあい、つまり外交は、我々には、如何ともしがたいことですが、人と人とのつきあいは、私どもの努力次第でよりましたな関係を築けるものと思っています。両国民の友好交流につながる活動を今後とも続けて行こうと思っています。

2014/02/27



Here we go!



語学クラス紹介

★日本語クラブ

授業：金曜日（第5週目は休み）

午後7時～9時

編集後記

講師：ボランティアの皆さん

場所：中央公民館

鴻巣駅から徒歩7分（鴻巣中学校前）

会費：無料

連絡先：鈴木和子（SUZUKI）090-6035-3649

臼田千鶴子（USUDA）048-596-5747

☆最近受講生の皆さんが少ないので、マン to マンで、その人に合ったレベルでその人のペースで勉強しています。みなさんのお近くに、日本語を学びたい方がいらっしゃったら、この教室のことをおしえてあげてください

★スペイン語クラブ

授業：第1, 3土曜日午後3時～5時

講師：ディエゴヨナミネ

場所：中央公民館

会費：2000円/月

連絡先：田上有三（TANOUE）（代表）

080-1317-5579

☆世の中、これから益々グローバル化が進んでいきます。

英語以外の外国語も必要になってきています。

スペイン語をみんなで仲良く勉強して、

これからの人生に役立てましょう。

みなさんの参加をお待ちしています。

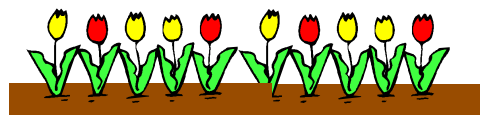
編集後記

グローバル 74 号の編集後記に北国の雪かきの悲哀について鈴木会長が書かれていましたが、まさかその数週間後にわが身に降りかかってくるとは…。家の雨どいは未だに屋根からの降雪で崩れたまま。皆様のお宅はいかがでしたでしょうか。

でも、大雪に苦しんだ2月も去り、忘れっぽい私たちは、また春の暖かい陽ざしに心を躍らせています。桜前線に心ときめき、一斉に芽吹いてきた木の芽の息吹に元気づけられ…。一年で一番好きな季節の到来です。そろそろ荒川土手の菜の花のじゅうたんも見に行かなくては。

4月からは新しい年度が始まります。どうか今年もたくさんの楽しい出会いがありますように♪。

新屋敷



★こども日本語教室「りぼん」

授業：土曜日（第5週目は休み）

午後1時30分～3時30分

講師：ボランティアの皆さん

場所：コミュニティふれあいセンター

鴻巣市登戸449

会費：無料

連絡先：鈴木和子 090-6035-3649

湯浅みほ 048-542-9000

☆このクラスは子ども中心ですが、大人も学んでいます。子どもは学校の予習、復習、ドリル等を、また大人は「日常生活に役立つ日本語」を学びます。お知り合いの外国の方に参加を呼びかけて下さい。